

再 評 価 調 書

I 事業概要																			
事業名	漁港漁場整備事業（栽培漁業センター管理運営事業）																		
地区名	栽培漁業センター																		
事業箇所	田原市小中山町一膳松																		
事業のあらまし	<p>県では、水産資源の増大を図るため、魚や貝の子供をつくり育てて放流する取組みである栽培漁業を推進しており、田原市にある栽培漁業センターにおいて、クルマエビなど7種の種苗生産を行い、漁業者団体に供給している。</p> <p>近年の環境変化による水産資源の減少など、本県水産業を巡る情勢の変化から、ハマグリ・ミルクイの新規生産や、ナマコの増産、養殖業（ワカメ）への種苗供給が漁業者から強く要望されているため、これらの種苗生産に必要な生産棟を整備（増築）し、種苗生産数量を増大させる。</p>																		
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>対象種の種苗生産数量の増大</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>魚種</th> <th>現状値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハマグリ</td> <td>0 個</td> <td>100 万個</td> </tr> <tr> <td>ミルクイ</td> <td>0 個</td> <td>14 万個</td> </tr> <tr> <td>ナマコ</td> <td>70 万個</td> <td>120 万個</td> </tr> <tr> <td>ワカメ種系</td> <td>0m</td> <td>40,000m</td> </tr> </tbody> </table>				魚種	現状値	目標値	ハマグリ	0 個	100 万個	ミルクイ	0 個	14 万個	ナマコ	70 万個	120 万個	ワカメ種系	0m	40,000m
魚種	現状値	目標値																	
ハマグリ	0 個	100 万個																	
ミルクイ	0 個	14 万個																	
ナマコ	70 万個	120 万個																	
ワカメ種系	0m	40,000m																	
計画変更の推移		事業採択時 (2022 年度)	再評価時 (2023 年度)	変動要因の分析															
	事業期間	2023～2025	2023～2025																
	事業費（億円）	4.1	10.1	事業採択時は、建築面積等から算出された概算の事業費であったが、設計実施により施設・設備の詳細な仕様が決定し、事業費が増加した。															
	経費内訳	工事費	3.9	9.9	<p>【建築工事】（2.4 億円→3.9 億円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は鉄骨造と想定していたが、2022 年 4 月 1 日に愛知県木材使用促進条例が施行された事に伴い、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、鉄筋と木造の複合、木造の 4 種の建築構造について耐久性、耐震性、建設コスト、維持管理コストなどを点数化して評価した結果、木造建築に変更した。 ・敷地地盤が傾斜しており、降雨時に雨水が新施設に流入する事が判明し、側溝を新たに追加した。 ・効率的な生産を行うために、生産する魚種に応じて飼育水槽の配置を変更する仕様にしたため、飼育に必要な海水、淡水、空気、温水、冷水、電線、計装配線の敷設ルートの変更が必要となり、それらを支持するための梁を増加させた。 ・当初、水槽置場には傾斜をつけて 2 本の排水溝から床上の水を排水する予定で 														

				<p>あったが、飼育場の問題で傾斜が付けられない事が判明したため、水槽置場には傾斜をとらず、3本の排水溝を設ける構造に変更した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労務資材費の増（2021単価→2024年単価） <p>【電気設備工事】（0.3億円→2.7億円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備する受変電設備の仕様を変更（変更内容） <p>種苗生産では海水・淡水を多量に使用することから施設内の湿度が高く、また海水ミストなども発生するため、受変電設備を屋内仕様から塩害・防湿対応の屋外仕様に変更した。</p> <p>また、設計により施設で使用する電気量及び電圧が把握できたため、それに応じた仕様の変圧器、開閉器に変更するとともに、高圧（6,600V）電力の安全性を確保するため、電気回路の保護器を追加する必要が生じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産する魚種に応じて飼育水槽の配置を変更する仕様に対応するために、水槽の配置換えの障害となる床下の電路ではなく、頭上に設けた支持材に電源や接地線を敷設する電路に変更した。 ・設備の停止が長時間に及ぶと飼育する種苗に影響が生じるため、受変電設備、加温設備、冷却設備、循環ポンプの機器異常、漏電などの電氣的トラブル、飼育水温の制御異常などを監視し、異常時には即時に発報するための監視システムを追加した。 ・ハマグリ、ミルクイ、ナマコなどの無脊椎動物の幼生は、銅や亜鉛などの金属イオンに極めて感受性が高く、結露水が水槽中に落下する事で重金属障害が発生する可能性があるため、使用する部材を樹脂類やステンレスに変更した。 ・生物の飼育に最適な温度に飼育水温を制御するための計装設備を追加した。 ・労務資材費の増（2021単価→2024年単価） <p>【機械設備工事】（1.2億円→3.3億円）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育水の加温について、当初は既存施設のボイラーで加温した飼育水を新棟に供給する計画であったが、加温能力が不足する事が判明したため、新棟で加温する方法に変更し、必要となるボイラー本体、重油タンク、温水膨張タンク、温水ヘッダー、温水循環ポンプ（2台の交互運転）の整備を追加した。
--	--	--	--	--

				<ul style="list-style-type: none"> ・設計の結果、種苗の飼育状況に応じて効率的な水槽の運用を行うため、冷水タンク、冷水循環ポンプ（2台の交互運転）の整備を追加した。 ・水槽の配置換えの障害となる海水・淡水・空気・温水・冷水の配管を頭上配管もしくは床下配管（排水溝内）に変更した。 ・頭上敷設する配管及び支持材について、電気設備工事と同様の理由により、飼育する種苗に重金属障害が発生する可能性があるため、使用する部材を樹脂類やステンレスに変更した。 ・労務資材費の増（2021 単価→2024 年単価）
	用補費	0	0	
	その他（設計費）	0.2	0.2	
	事業内容	種苗生産施設 平屋建て 約 600 m ²	種苗生産施設 木造平屋建て 約 600 m ²	

II 評価

① 事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <p>ハマグリ、ミルクイ、ナマコは漁業者から資源の増大が求められており、栽培漁業の一層の強化が必要である。また、ワカメは養殖生産を安定させるため、種苗の確保が必要である。しかし、栽培漁業センターの既存施設では対応できないため、これらを生産する施設を整備する必要がある。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>既存施設では現状の7魚種の生産が限界であり、新規魚種（ハマグリ種苗、ミルクイ種苗、ワカメ種系）の生産及びナマコ種苗の増産を行うためには、新たな施設の整備が必要である状況に変化はない。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>新規魚種の生産、既存魚種の増産に対する漁業者からの要望は依然として強く、対象種の栽培漁業推進の必要性に変化はない。</p>
	判定	<p>B</p> <p>A：事業着手時に比べ必要性が増大している。 B：事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。 C：事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>【理由】</p> <p>既存施設での種苗生産能力に変化はなく、対象種の栽培漁業推進による資源増大及びワカメ養殖生産の安定化は、漁業経営の安定及び本県水産業の振興に必要であり、施設整備の必要性に変化はないため。</p>

② 事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	<p>【事業計画及び実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>2023</th> <th>2024</th> <th>2025</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">実施設計</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">↔</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">↙</td> </tr> <tr> <td colspan="2">建設工事</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">↔</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事業費 (億円)</td> <td>当初計画</td> <td>0.2</td> <td colspan="2">3.9</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">↙</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>今回計画</td> <td>0.2</td> <td colspan="2">9.9</td> <td>10.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【進捗率】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗率</th> </tr> <tr> <th>計画 【①】</th> <th>実績 【②】</th> <th>達成率(%) 【②÷①】</th> <th>計画 【③】</th> <th>達成率(%) 【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>10.1</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>9.9</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td> その他 (設計費)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.2</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【施工済みの内容】 該当なし。</p> <p>【事後評価に準ずるフォローアップ】 該当なし。</p>							2023	2024	2025	合計	実施設計		↔			↙	建設工事		↔			事業費 (億円)	当初計画	0.2	3.9		4.1	実績	↙			0	今回計画	0.2	9.9		10.1		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率		計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】	事業費(億円)	-	-	-	10.1	0%	工事費	-	-	-	9.9	0%	用補費	-	-	-	-	-	その他 (設計費)	-	-	-	0.2	0%
			2023	2024	2025	合計																																																																				
	実施設計		↔			↙																																																																				
	建設工事		↔																																																																							
事業費 (億円)	当初計画	0.2	3.9		4.1																																																																					
	実績	↙			0																																																																					
	今回計画	0.2	9.9		10.1																																																																					
	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗率																																																																						
	計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】																																																																					
事業費(億円)	-	-	-	10.1	0%																																																																					
工事費	-	-	-	9.9	0%																																																																					
用補費	-	-	-	-	-																																																																					
その他 (設計費)	-	-	-	0.2	0%																																																																					
2) 未着手又は長期化の理由	事業の進捗は計画どおり																																																																									
3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】 阻害要因は無い。</p> <p>【今後の見込み】 2023年度に実施設計を終え、2024年度以降は、予算確保に努めながら事業の進捗を図り、予定工期内の完了を目指す。</p>																																																																									
判定	A	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p> <p>【理由】 阻害要因はなく計画どおりの完成が見込まれるため。</p>																																																																								

③ 事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】 事業採択時における費用対効果については未算定。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>事業採択時 (基準年:2022)</th> <th>再評価時 (基準年:2023)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費（建築工事）</td> <td>—</td> <td>9.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種苗生産業務運営費用</td> <td>—</td> <td>2.1</td> <td>生産した種苗は、受益者となる漁業者団体へ売却するため、運営費用は種苗売却収入を差し引いて算出している。</td> </tr> <tr> <td>合計 (C)</td> <td>—</td> <td>11.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>効果 (億円)</td> <td>種苗供給に伴う漁業生産量の増加効果</td> <td>—</td> <td>14.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td>—</td> <td>1.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は社会的割引率（4%）を用いて現在の価値に換算したもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価期間：18年間（事業期間3年＋木造施設の耐用年数15年） ・ 種苗生産業務運営費用：評価期間中の種苗生産（新規分）に要する経費の累計 <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】 新たに生産（増産）する魚種のための施設整備費及び種苗生産業務運営費用に対して、新たに生産（増産）した種苗を放流・養殖することによって増加する漁業生産量（15年間累計）を便益として費用対効果を算出している。</p> <p>【変動要因の分析】 貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析を行った結果、B/Cは1.0を超えている。</p>			区 分		事業採択時 (基準年:2022)	再評価時 (基準年:2023)	備 考	費用 (億円)	事業費（建築工事）	—	9.7		種苗生産業務運営費用	—	2.1	生産した種苗は、受益者となる漁業者団体へ売却するため、運営費用は種苗売却収入を差し引いて算出している。	合計 (C)	—	11.8		効果 (億円)	種苗供給に伴う漁業生産量の増加効果	—	14.3		費用対効果分析結果 (B/C)		—	1.2	
	区 分		事業採択時 (基準年:2022)	再評価時 (基準年:2023)	備 考																											
	費用 (億円)	事業費（建築工事）	—	9.7																												
種苗生産業務運営費用		—	2.1	生産した種苗は、受益者となる漁業者団体へ売却するため、運営費用は種苗売却収入を差し引いて算出している。																												
合計 (C)		—	11.8																													
効果 (億円)	種苗供給に伴う漁業生産量の増加効果	—	14.3																													
費用対効果分析結果 (B/C)		—	1.2																													
2) 貨幣価値化困難な効果の変化	該当なし。																															
判定	B	<p>A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。</p> <p>B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。</p> <p>C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p>																														

		<p>【理由】 事業採択時に比べて事業費が増大したが、B/Cは1.0を超えており、十分な事業効果が期待できるため。</p>
<p>Ⅲ 対応方針（案）</p>		
<p>継続</p>	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>	
<p>Ⅳ 事後評価実施の有無と主な評価内容</p>		
<p>■対象（事業完了後5年目） <input type="checkbox"/>対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 — 【主な評価内容】 ハマグリ種苗、ミルクイ種苗、ナマコ種苗、ワカメ種系の生産数量</p>		
<p>Ⅴ 事業評価監視委員会の意見</p>		
<p>栽培漁業センターの対応方針（案）〔事業継続〕を了承する。</p>		
<p>Ⅵ 対応方針</p>		
<p>事業継続</p>		